

## 奉仕の生涯

パウロが書いた手紙は新約聖書の約四分の一になります。多くのキリスト者が励まされ、慰められ、立ち直ったことでしょう。教会、キリスト者のあるべき姿が示されています。パウロはなに故にキリスト者になったのでしょうか。いろんなことが想像されます。

パウロはユダヤ教のパリサイ派に属していました。厳格に律法を守ります。守らない人を非難します。守るからには律法の隅々まで学びます。誰にも負けないように努力します。

毎日が他者に負けない「努力、努力！」の日々でした。これでは疲れしました。

一方、新しく生まれた「キリスト教（この道）」（9：2、16：17、18：26、他）の人々の生活はどうだったのでしょうか。迫害を受け始めます。

パウロは『主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。』（使徒言行録9：1、2）

パウロは実行の人でした。すぐ行動へ移ります。イエスを十字架へと追いやった道です。

キリスト者はイエス様と同じ道へ歩み始めました。一方のパウロはこの出来事の重大性に気づきません。

（山下誠也）